



Title	特集：教育に愛<AI>を！
Author(s)	大前, 智美
Citation	サイバーメディア・フォーラム. 2024, 25, p. 2-3
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/97789
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

特集：教育に愛<AI>を！

大前 智美(大阪大学 サイバーメディアセンター)

2022年11月にOpenAIからChatGPTがリリースされたのをきっかけに、GoogleのGemini、MicrosoftのCopilotなどが発表され、生成AIが身近なものとなり、教育でも注目を集めている。教育面での生成AIの使用に関しては、倫理的問題・信頼性と正確性・教育や評価の質という点で注意が必要である。

そこで、本年のサイバーメディアフォーラムの特集は「教育に愛<AI>を！」というテーマで、教育に生成AIを取り入れるためにとても参考になる4つの記事を紹介する。

まず、大阪大学全学教育推進機構の長岡徹郎先生と浦田悠先生には、2023年の生成AI教育ガイドの作成やFDセミナーを柱とする教育学習支援部の活動を紹介いただく。大阪大学における生成AIの利用状況や課題、「教育と生成AI」から教育でどのように活用ができるか、また注意点についても詳述されている。学内FDで教員がどのように生成AIに慣れ、活用できるかというワーク、それを通して今後どのように生成AIと向き合っていくかということが述べられている。

北海学園大学の杉江聰子先生は、外国語教育(中国語)における生成AIの活用事例を紹介してくださっている。生成AIを活用することで、学習者が外国語「を」学ぶのではなく、異文化理解や多様なコミュニケーション活動を通じて「何を学び、いかに外国語を運用するか」という教育の転換を目指した実践の報告となっている。AI活用作文タスクを通して、学生がどのようにAIを受け止めているのか、学習への取り組み方が変わったのかをアンケート調査を分析し、詳述されており、外国語教育におけるAI活用の実践を垣間見ることができる。

立命館大学大学院の杉山滉平先生は、生成AIを用いた語学学習ツール「Transable」の開発をされている。ChatGPTや翻訳アプリを組み込んだWebサービスを開発し、英語の自然な表現を学習できるよう工夫されたサービスである。Transableを活用した立命館大学の英語授業の実例も紹介されており、「エッセイを書く」という課題において、学生のCEFRスコアが上昇し、エッセイの質が向上していることがわかる実践である。Transableを活用することで、個別最適化された学習サポートやインタラクティブな学習体験の提供、教師の負担軽減と授業の質の向上を提案されている。ちなみに、Transableのドイツ語β版を私も授業で導入し、学生たちの作文や文法力を支援してくれる有効なサービスであることを確認している。

大阪大学サイバーメディアセンターの岩居弘樹先生にはAIが組み込まれたWEBサービスでこれからの教育に大いに活用ができそうなものを2つ紹介していただいている。1つはPadletというさまざまな形態のWebページを作成できるサービスである。Padletは2024年度にAIを組み込んだだけでなく、多くの機能を追加しており、AIを使用した評価投票機能などは、外国語の授業に限らず多くの分野で学生の理解度チェックなどのために活用できそうな機能である。2つ目はQuizizzというクイズアプリのAI機能であ

る。Quizizz は無料でも十分活用できるクイズツールであり、そこに AI で自動作問できる機能が追加された。これらの実用的な使用方法を紹介いただいており、読者の方々の今後の教育に大いに役立てていただければと思う。このようなツールを使った授業の試みや実践を共有する場として iPad Café という FD を毎月第 2 木曜日にサイバーメディアセンターで実施している。ご興味のある方はぜひお越しください。

本特集は「教育に愛<AI>を！」というテーマで、大学教育全般における生成 AI の導入の仕方、外国語授業を中心とした教育における AI 活用の実践例をまとめた。生成 AI の登場から今に至るまで、そして今後もまだまだ変化・発展し続けるであろう。便利ではあるが、便利なだけではなく注意も必要であり、教育での活用については常に最新の情報を取り入れ、活用方法について向き合い続けなければならるものである。これからも愛を持って、AI とともに教育に取り組むことのできる教員や学生を支援し続けることが、私たちサイバーメディアセンターの責務であると考えている。まずは本特集の 4 つの取り組みを参考にしていただけたら幸いである。

巻頭言はサイバーメディアセンターの浦西友樹先生にご執筆いただいた。

AI が便利に見えても、そこに教育・学習を丸投げすることなく、向き合って生きていきましょう。

きっとこれが巻頭言の答え合わせ！

あなたが生きた証がある

この命で抱きしめるよ

AI（愛）を両手に

- ・大阪大学における生成 AI に関する FD 活動 ----- 長岡 徹郎・浦田 悠
- ・AI を活用した大学の中国語授業：学生の反応と教師の役割----- 杉江 聰子
- ・生成 AI 等を用いた語学学習ツール「Transable」と教育分野への活用事例 ----- 杉山 涼平
- ・Web サービスに埋め込まれた生成 AI で教材を作る ----- 岩居 弘樹